

【第1号議案資料】

公益財団法人 U ビジョン研究所

第6期 事業計画

～2021年4月1日から2022年3月31日～

今年度の事業計画の重点目標は、昨年度から継続事業となる U ビジョン研究所の事業を多くの高齢者施設を運営する事業所に知ってもらい、講師派遣事業を通して、認証「悠」を広げていくことを継続する。

昨年度は介護保険制度から20年経過し、創設の理念である「人間の尊厳を守る」ためのキャンペーンを企画していたが、新型コロナ感染が世界中で爆発的に拡大したことを受け、活動は休止せざるを得なかった。そのために、寄附金を募ったところ、112,000円が集まった。それを活かし、認証「悠」施設で認証審査及び抜き打ち調査において、「拘束ゼロ」「コールの位置適切」「不適切ケア防止に努力する施設」として玄関など目につきやすい場所にステッカーが貼れるよう製作（日時、確認：公益財団法人 U ビジョン研究所を記載）の検討を行い、「人権が守られている施設」として市民に分かりやすいようにする。

「認証事業」は、2019年度に6施設となったが、今年度は新型コロナ感染の終息を見て関心を持ってもらえるよう努める。さらに、他団体や事業所との協力関係も強めるための検討を行い、国の福祉サービス第三者事業や監査の民間委託など制度との連携が図れる方法について検討する。

評価者は昨年度1名増やすことができ、現在、評価者は7名となった。需要と供給のバランスでいうとちょうどよい人数となっている。

「施設評価事業」は新型コロナ感染の終息が見えておらず PR の工夫が必要となっているところであるが、幸いにも今年度は1件の実施が予定されている。

「講師派遣」事業は、現在、U ビジョンの財政基盤を支えている事業となっており、PR 用のパンフレットも刷新した。それを活用して講師派遣から認証取得への道を開いていけるようにしたい。4月に開設する埼玉県の特養ホームと愛知県の地域密着型施設の業務改善のための研修が増える。

「広報誌」は年4回（3月、6月、9月、12月）発行する。

「ホームページ」は全項目の見直しを行う。

「セミナー」は新型コロナ感染の終息が見えてこないため、今年度も中止する。

「寄附金」は年々予算を超えて集めることができしており、引き続き寄附金募集を続ける。

「賛助会員」について、個人賛助会員は増減（自然退会など）があり、増やしていくのは難しい状況にある。「法人賛助会員」は、講師派遣事業と関連する形となっていることもあり1法人増える。

「特定費用準備資金」を創設する。将来の収支変動（収入減少・費用増加）や新型コロナ感染拡大に伴い非常事態宣言があるなど運営にも大きな影響を与える出来事や災害発生に対応できるようにする。さらに、事業拡大のために必要な時に必要な財政が確保できるように資金を確保する。

介護分野の人材確保がますます厳しさを増している状況で、「若手職員と介護の未来を考える会（案）」を設置し、より多くの若い人たちへ介護の仕事のメッセージを発信するとともに職場で若い人たちが働きやすい職場環境を作っていくための参考となるようにし、国や自治体、関係団体、マスコミに広く発信する。

労務関係で新たな規程を創設する。これまで当該研究所は非常勤職員に支えられて運営してきており、今回、非常勤職員の退職を期に慰労金支給に関する規程を作成すると共に、常勤職員の引当金の保険加入など検討する。

「事務局」においては、常勤職員1人と、非常勤職員1人、有償ボランティア1人、理事長（非常勤）の体制で運営する。

年末年始は12月25日から翌年1月5日までの休み。夏休みは仕事に支障がない限り、調整して長く取れるようにする。

理事長 本間 郁子